

服部文庫
117
1550
4



117
1550
4

紀伊國名所圖會卷之三目錄

耳蕨の製
雄の山
なる弓雲居
紀の園跡
紙園寺
力侍神社
楠本社
八王子社
徳社明神
星頭神社
高良神社
浄土寺

滝畑
雄の峠
白鳥神社
山王社
坂上氏宅
川邊王子
八幡社
大屋都比賣社
十五社明神
府中神社
齒觀音堂
畠助老丈堂

中山王子
雄中山
山口王子
法新寺
山口驛舎
中村王子社
八名城跡
八幡宮
冬上寺
高橋神社

音世の湯
紀乃園守
小野寺
寺屋神社
八王子社
午頭天王社
永正寺
永徳中老丈堂
田子丸老丈回忌
松攢寺
正法寺
天心神社





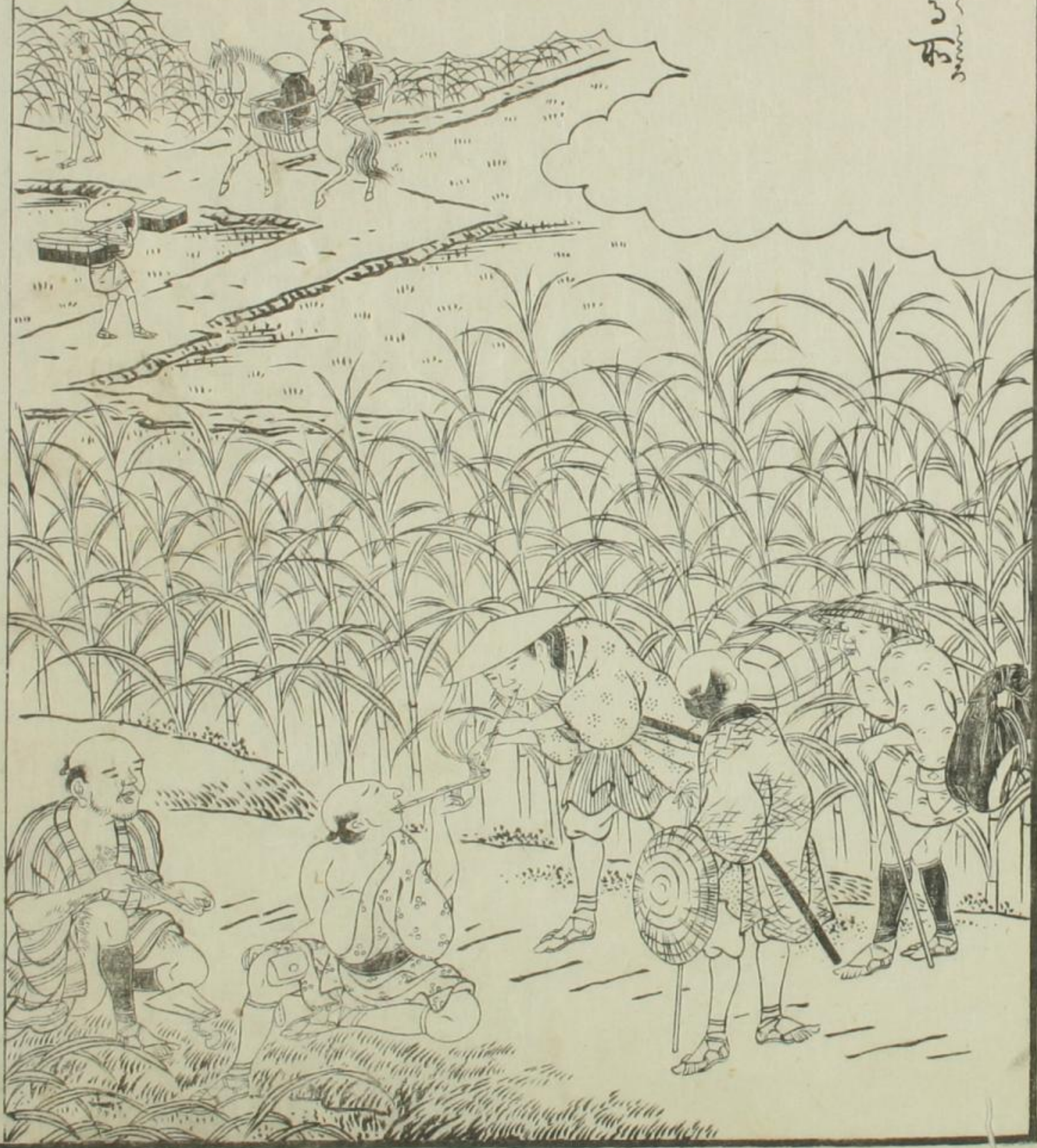
甘藷作る所

ことりま

うゆた

秋日和

洛代明



丹生神社
奉徳寺
千壽の原
赤久岬
直川助老夫屋
伊也七神社
圓部神社
代鬼隠山墓
辰吉社

總社明神
法華堂
日前宮七瀬波
籤法藏
役行共母公存塔
櫻井
一樂寺
園部兵衛塚
九頭神社

明光寺
昌浦井
谷坊
藏王権現社
南殿文日寺
圓明禪寺
九頭神社
赤財天社 藤

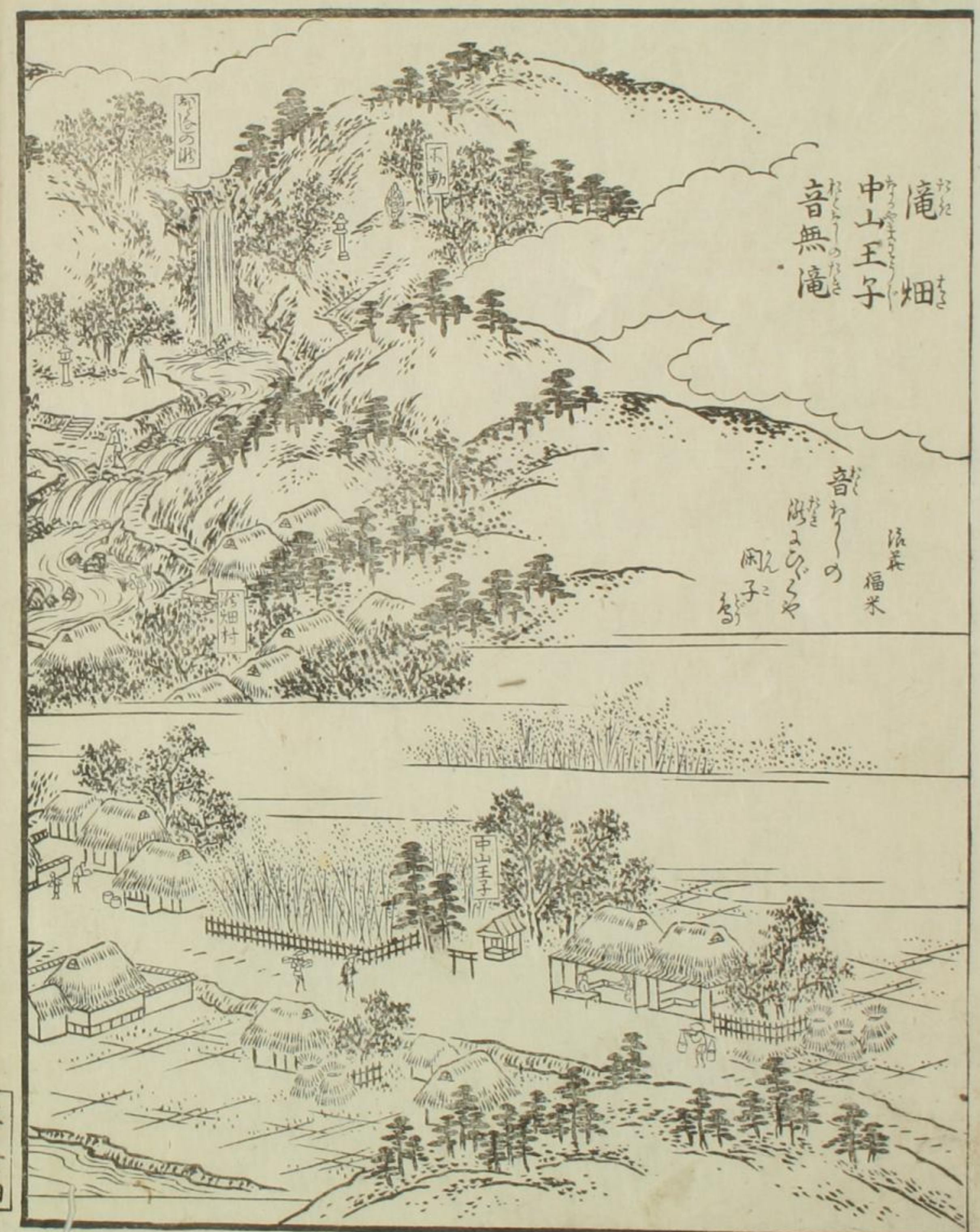
浄永寺
直河茶店圖
兒の巻
八王子社
伊久姫社



雲來雨去竟
茫然臨水登
山何處旋解
道九嶷如黛
色今朝依舊
隔湘川

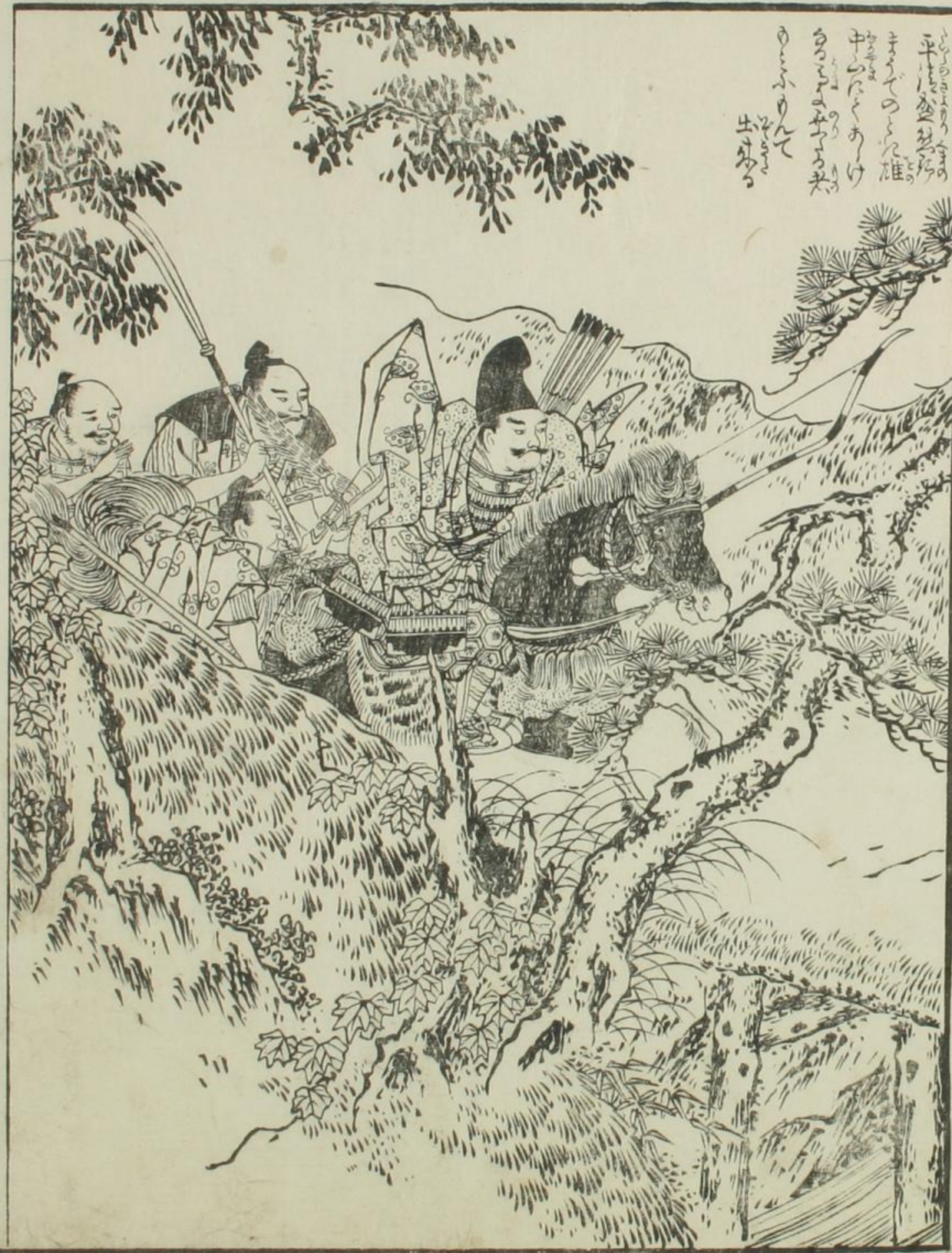
縣周南

わさびの
附
ゆき
五雲

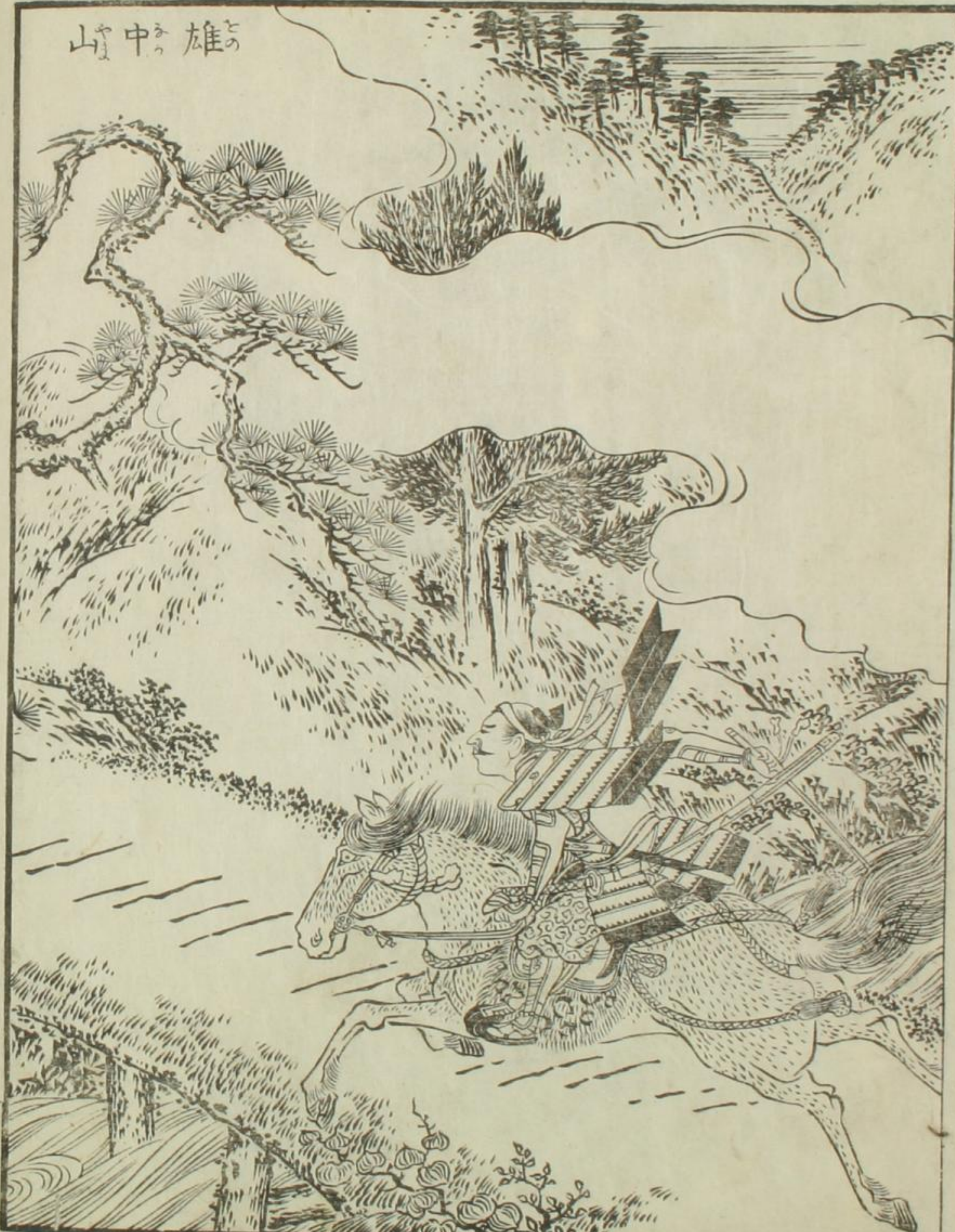


滝
中山王子
音無滝

法英
福米
音無の
湯
岡子



平賀源一
山崎闇斎
中津藩
出陣

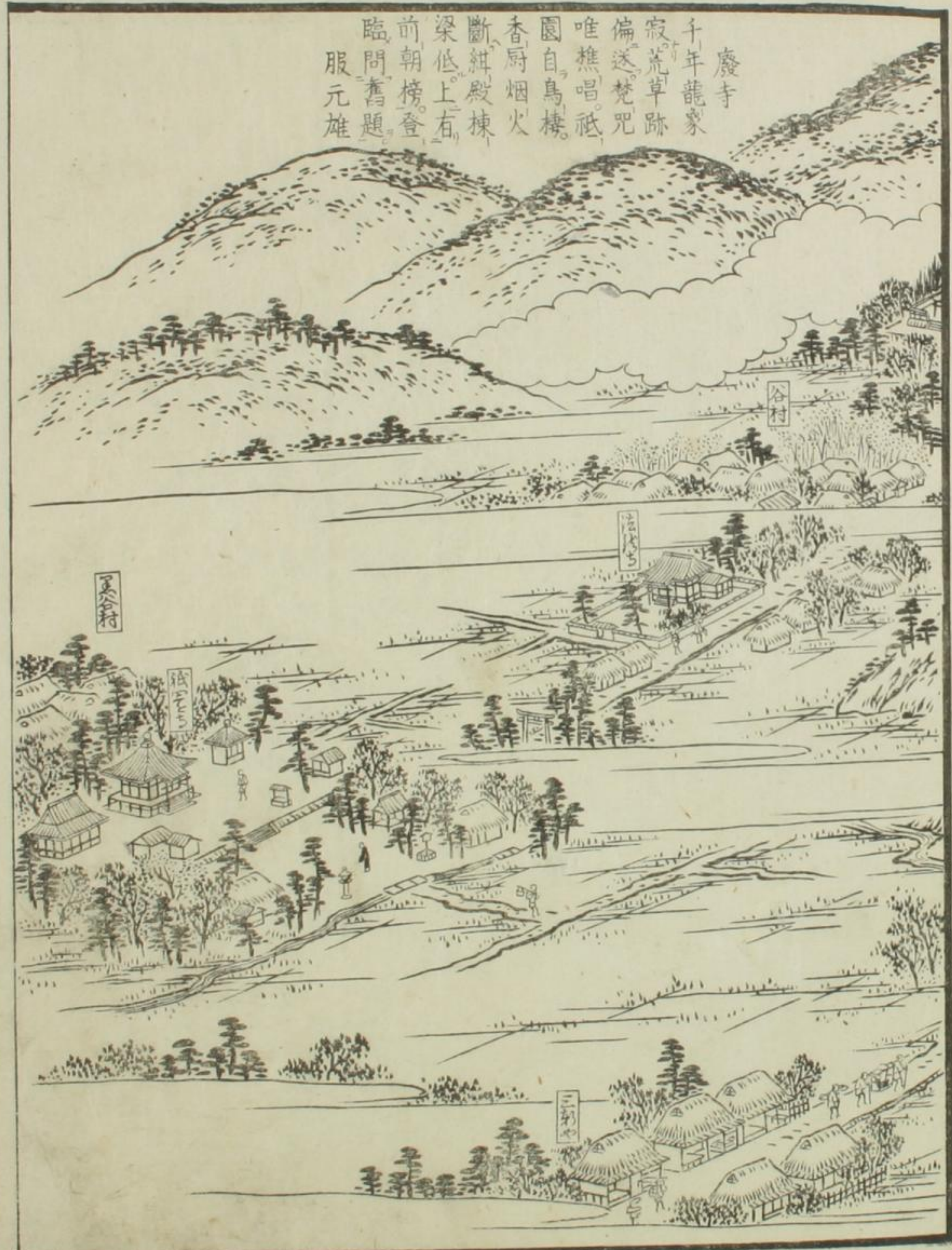


山中雄

三十五



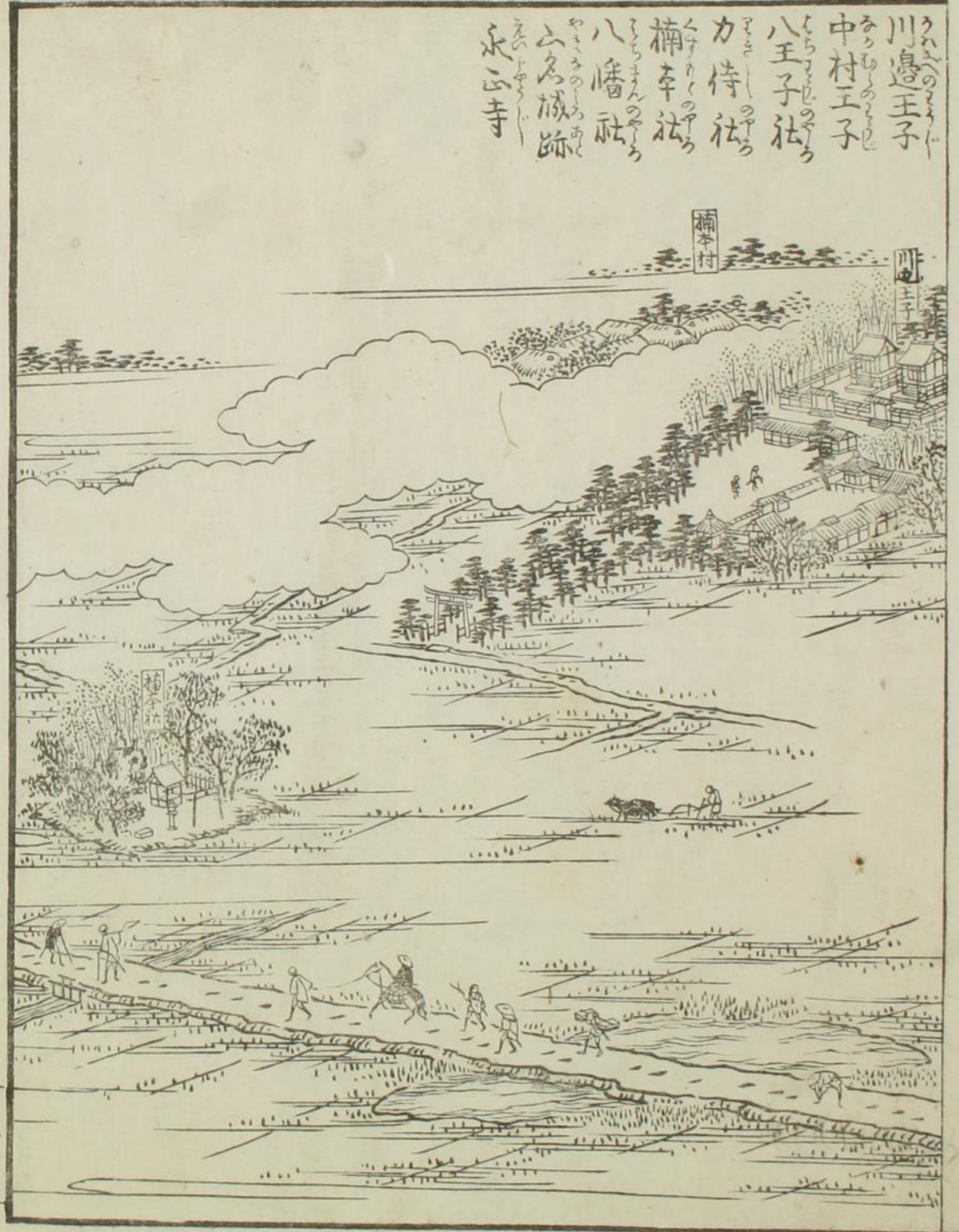
廢寺
 千年龍象
 寂荒草跡
 偏送梵咒
 唯樵唱祇
 圓自鳥棲
 香厨烟火
 斷緝殿棟
 梁低上有
 前朝榜查
 臨問舊題
 服元雄



雄山
 白鳥社
 山呈子
 紀園古流
 小町寺
 山王社
 土屋社
 祇園寺



川邊王子
 中村王子
 八王子社
 力侍社
 楠幸社
 八幡社
 山名城跡
 永正寺



山名城跡
 八王子社
 力侍社
 楠幸社
 八幡社
 山名城跡
 永正寺



命云く一村の産神ありて毎歲九月十日を祀り○此社の地面より櫻樟樹の朽株ありて自其
一叢の社とせらるる其株今猶存して周り三十歩ありて宮より對し其朽株の朽木ありて人
此朽木を焚きて此朽木より和虎山へ果てり人民をよませし一々大田年中田村の宮に朽木を
を遺俗としていふに其朽木を伐倒して

八王子ノ社 永徳村 祭る神曆神八將軍 一村の産神にして每歲九月十九日を祀り

八幡宮 日村 往昔與教大師根元寺の御寺の内に八幡社と稱せり

山名修理者夫妻義理墨跡 日正西に西に墨跡の跡ありて永年中墨田と云ふは是れ山名三町

永徳中小夫妻位藤原の未業 永徳村の未業ありて永徳村の未業ありて永徳村の未業あり

神波 宇田村 神波の神ありて神波の神ありて神波の神ありて神波の神あり

祭る神三座 中央 五十猛命 延喜式神名帳云大屋都比賣神社神名帳云大屋都比賣神社

大屋都比賣神社 平田 祭る神三座 延喜式神名帳云大屋都比賣神社神名帳云大屋都比賣神社

四時祭禮 三月十六日四月朔日六月朔日九月九日 十月十日十一月十六日

楠塚 境内の神あり 祀神 御手洗 若宮八幡社 弁財天社

十五社の社 宇田八幡宮 若宮八幡社 弁財天社

大和御前社 御後納山 若宮八幡社 弁財天社

抑當社大屋都姫命とやまふ山東庄に坐す伊太祁曾を神

の御妹神はまはして兄命と曰く樹木種と天より持りて給て此國よ

播し多し神法坐ははらぬ故ふまの木の國といふ

まよりして大八洲國中よりく海極多して野も山も青く草木の世

なる此御神の功あり宮殿民屋まで材木を用ひて造ることをもたれ

大屋て御名を負ひ多りて上下も崇敬をばして天皇七十三代堀河

天皇寛治二年四月越野三山へ御幸なせむに内當社も御奉幣なり其後去

治元年神田十八丁社地五丁四面御寄附ありてそのひぬからじより社社の社殿

きしむに未社に基く昼後日巫祝の終の声浄くして月と東も夜

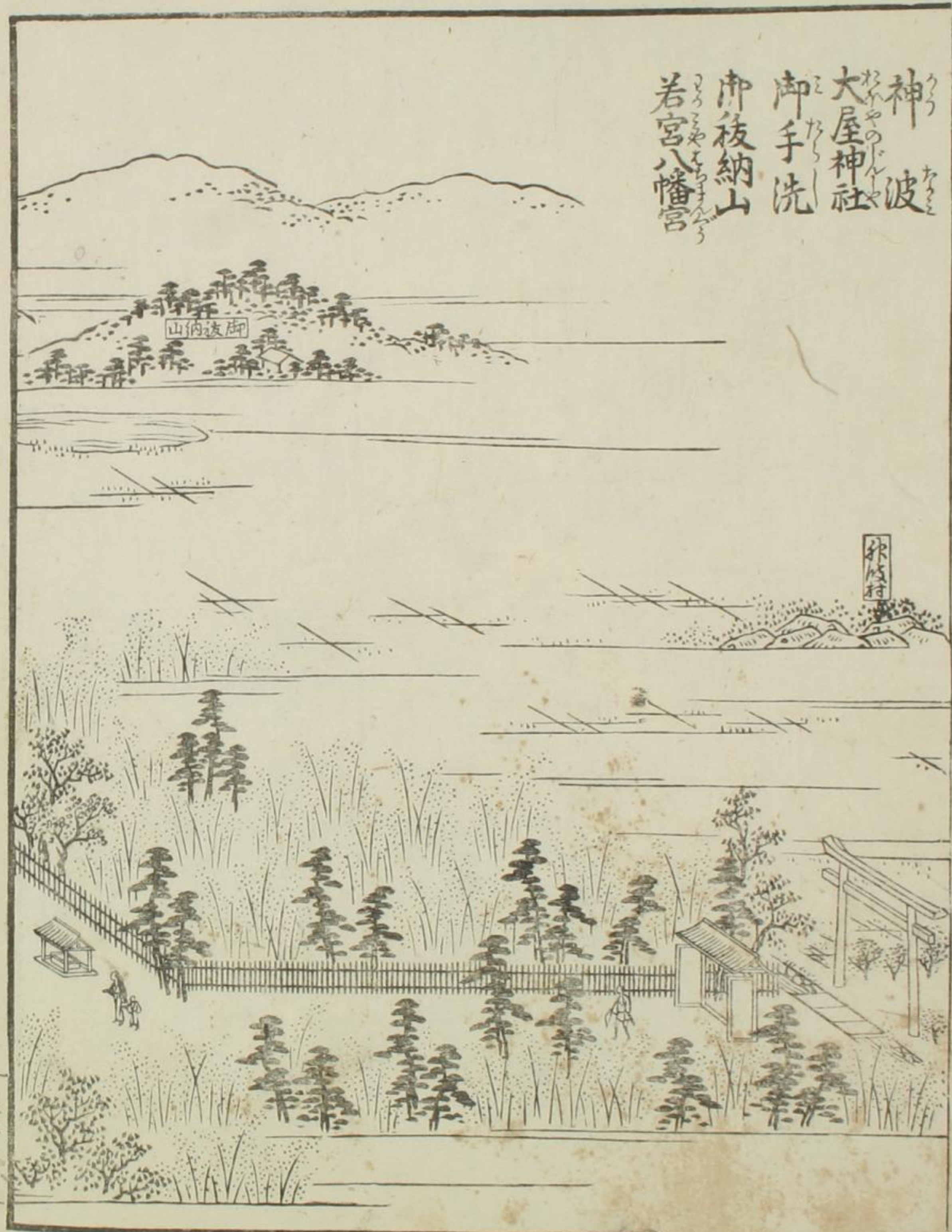
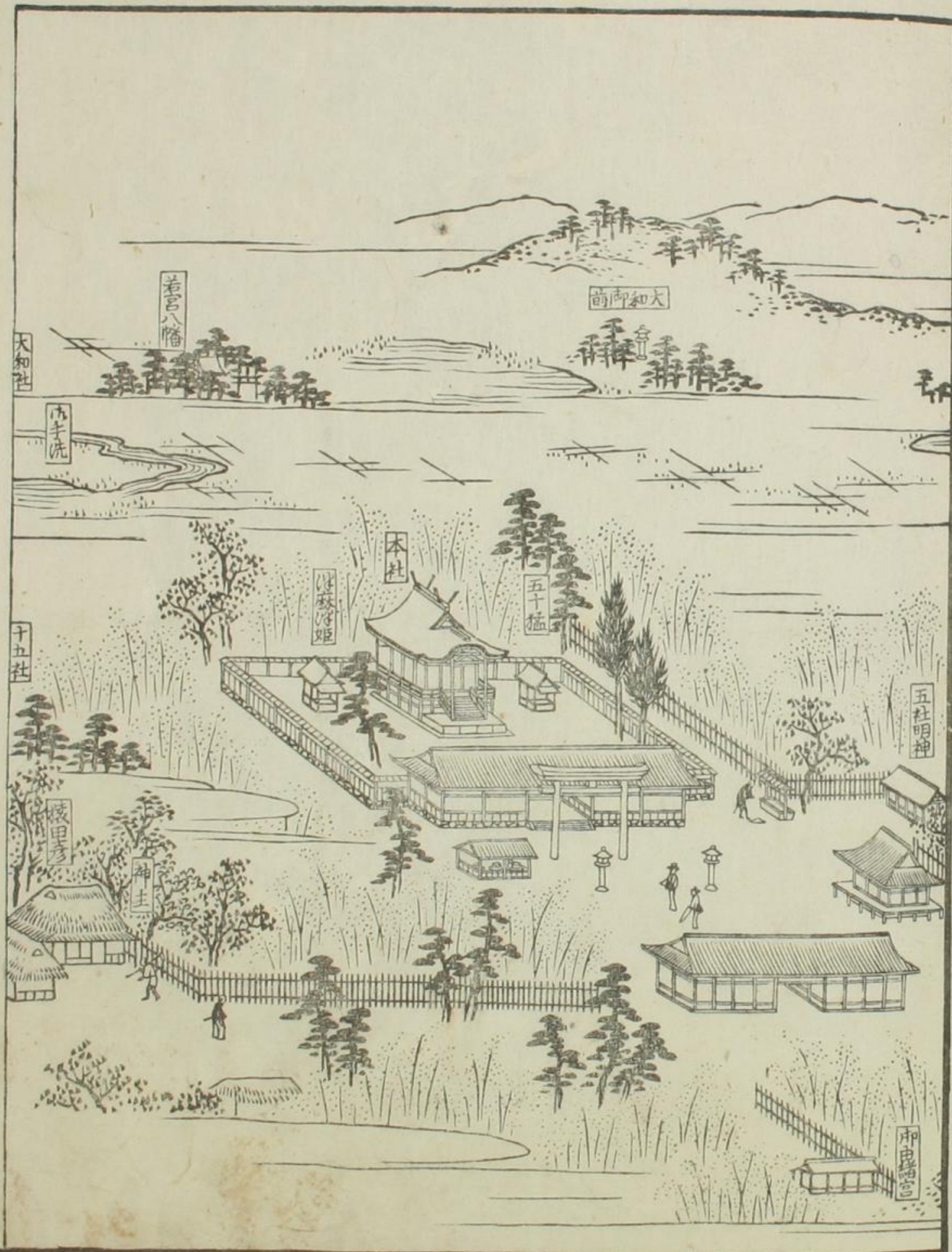
夜もとむ常燈の光煌々として眼と奪ふはも輪奐する宮居るりも應

永の大乱の兵勢を羅すて社殿残らば鳥有とあり僅か其十が二と存と云

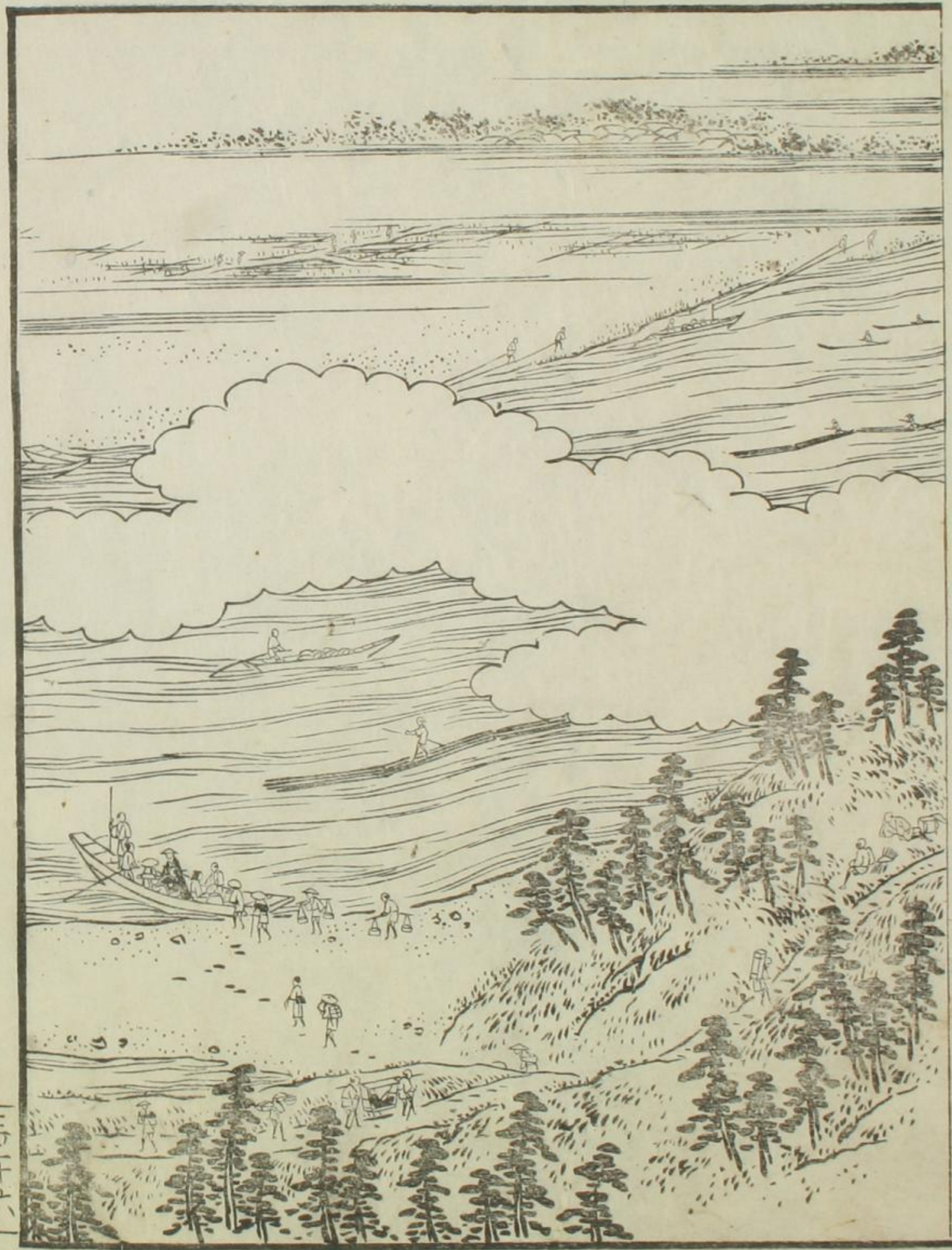
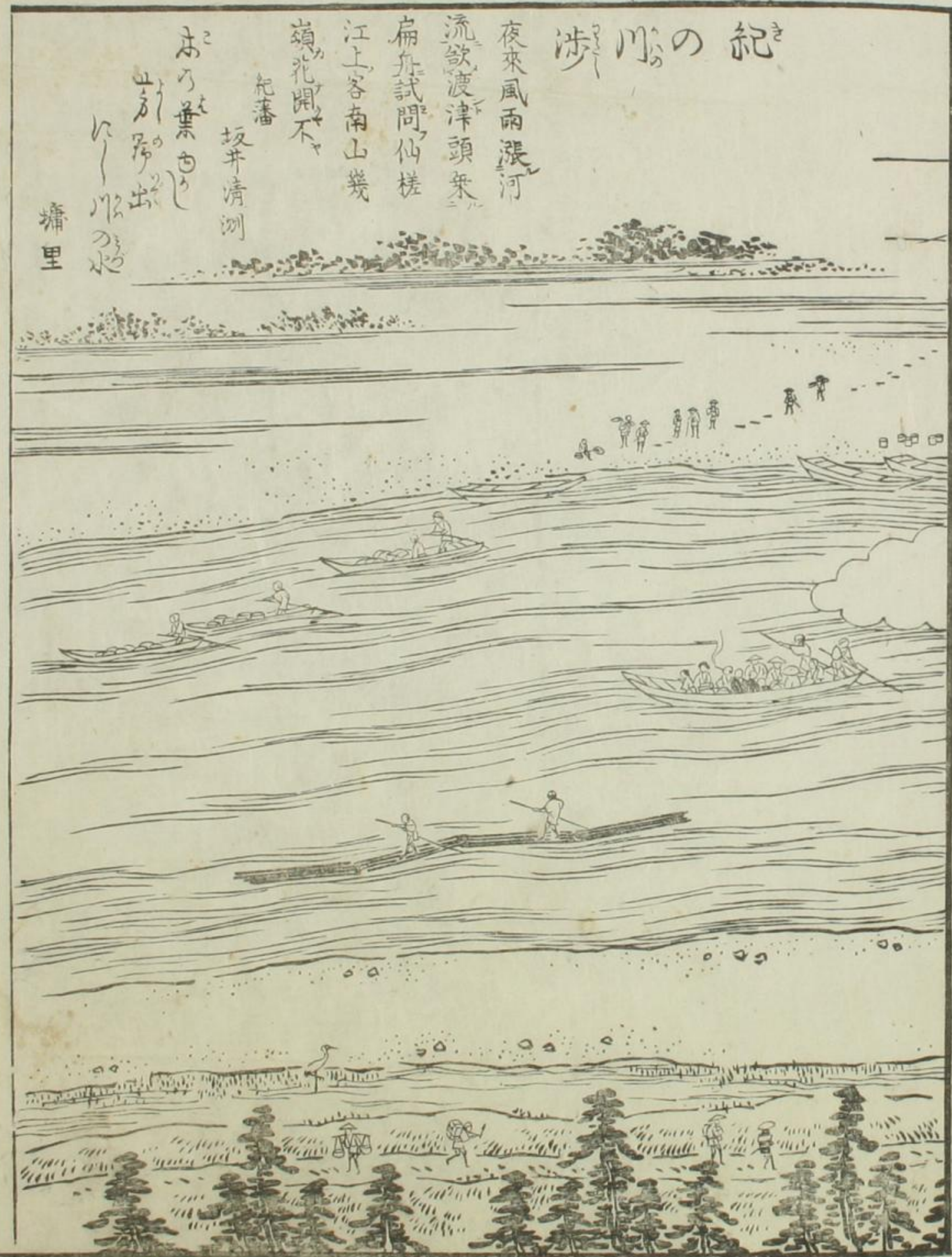
當社の祝家赤良氏大屋彦よりお債して今に至りて八十三代連綿たり

妻の社家の

同記より



神波
 大屋神社
 御手洗
 御後納山
 若宮八幡宮





府中八幡社
八幡村
本社

高良明神社
齒観音

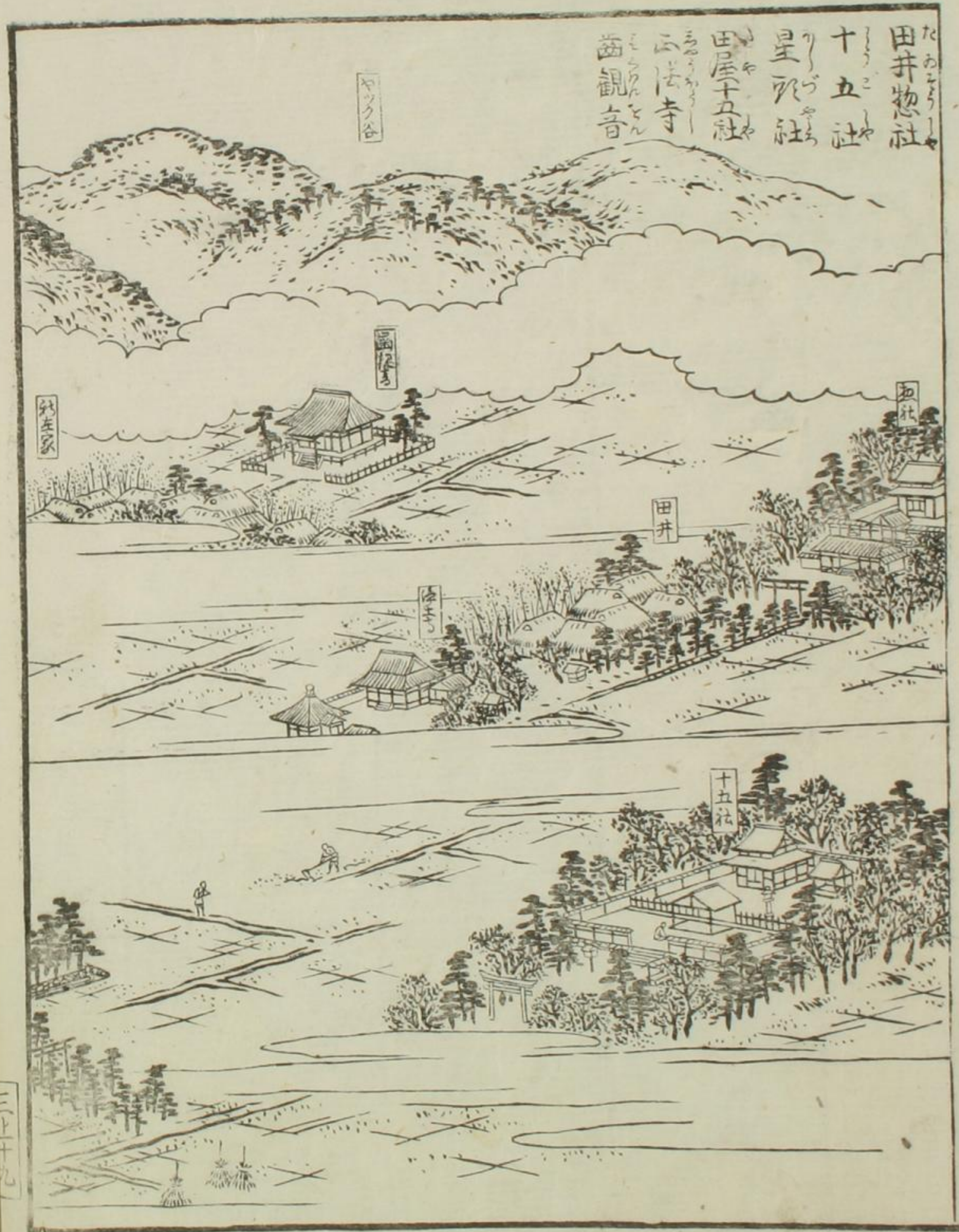
高良明神社 日村の南山の
齒観音 ありては
山ありては... 高良明神社の南山の... 齒観音ありては... 高良明神社の南山の... 齒観音ありては...

圓上寺旧地

右より

十五社明神
梅松山三法寺

十五社明神 田屋村あり
梅松山三法寺 日村あり
寺ありては... 日村ありては... 寺ありては... 日村ありては...





直川本願寺

登大福山

香門幾歲相尋積
仙宇宏寥鎖夕陽
衆徒擯奉望不盡
滿林霜葉隨風飛

坂井清洲

遠山松林

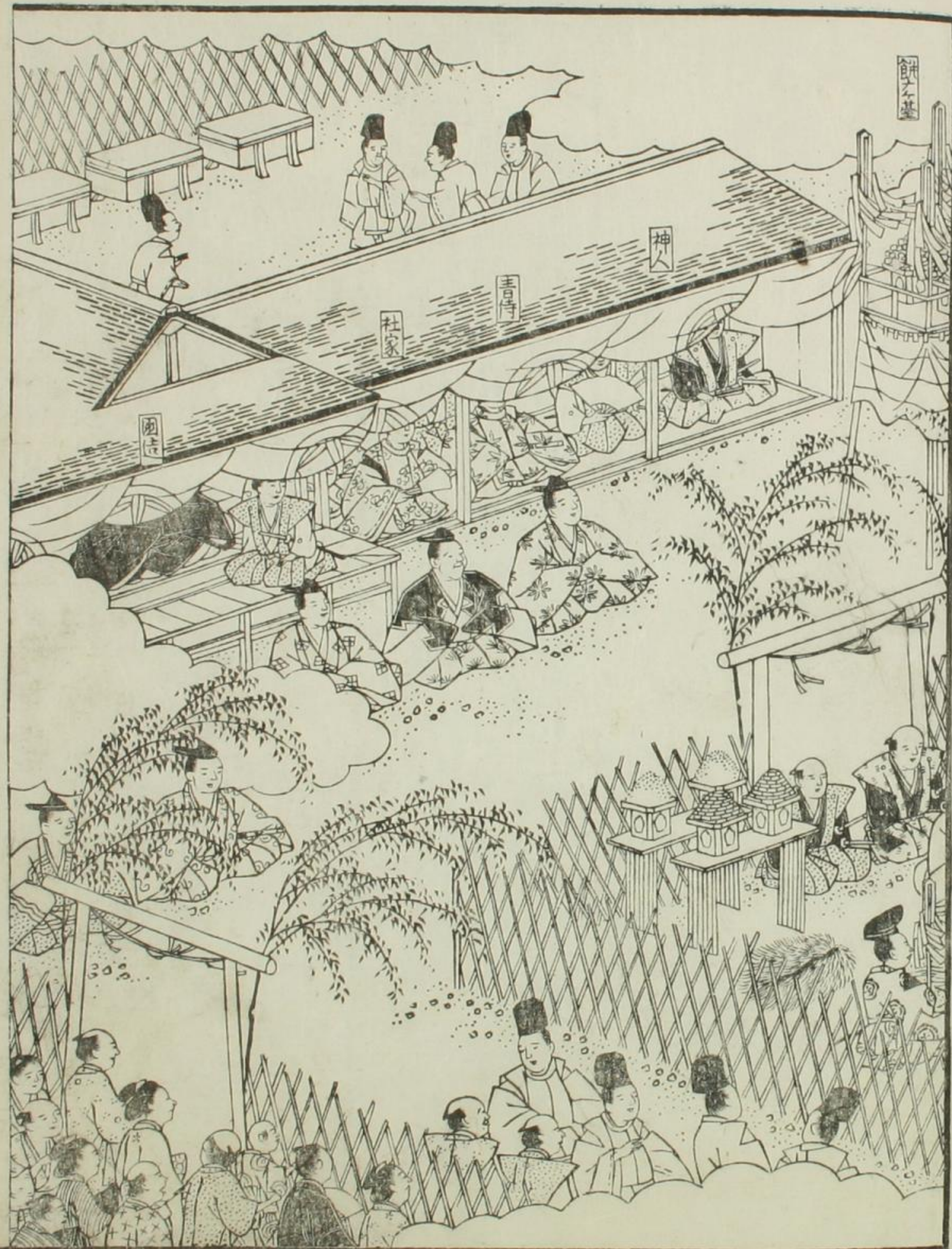
支考

山中人這

かろ

仙花





見よ川
千手川
日前宮
七瀬
七瀬

之の... 儒官... 後あり... 終して... 一... あり... あり... あり...



辛卯春之東都直川
 酒店留別諸子
 柳色鶯夢惹
 恨來
 故人を勸送
 行杯
 壁間、醉筆代
 題柱
 明歳須從此
 路回
 南

を清して中奥の洞祖とち号瓜以て奉惠寺と名優摩塞の
 草創より却て三々として今既も此門の法再宗とありあり○

什寶弘法大原と蹟乃阿字
大原自傳の大日如来と等一曆年中... 弘法大師の蹟乃阿字... 什寶弘法大原と蹟乃阿字... 弘法大師の蹟乃阿字... 什寶弘法大原と蹟乃阿字...

千壽の原
千壽の原... 千壽の原... 千壽の原... 千壽の原... 千壽の原...

大福山辨賊天之處
大福山辨賊天之處... 大福山辨賊天之處... 大福山辨賊天之處... 大福山辨賊天之處... 大福山辨賊天之處...

兼法ヶ嶽
兼法ヶ嶽... 兼法ヶ嶽... 兼法ヶ嶽... 兼法ヶ嶽... 兼法ヶ嶽...

是又月く葛城の山中に於て修験
是又月く葛城の山中に於て修験... 是又月く葛城の山中に於て修験... 是又月く葛城の山中に於て修験... 是又月く葛城の山中に於て修験... 是又月く葛城の山中に於て修験...

はるばる... 痛り... 山... 伊弉... 直川... 役... 藏王... 八王子...
直川助を夫散位紀朝臣の末葉
役の者母公石塔
藏王権現社
八王子社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

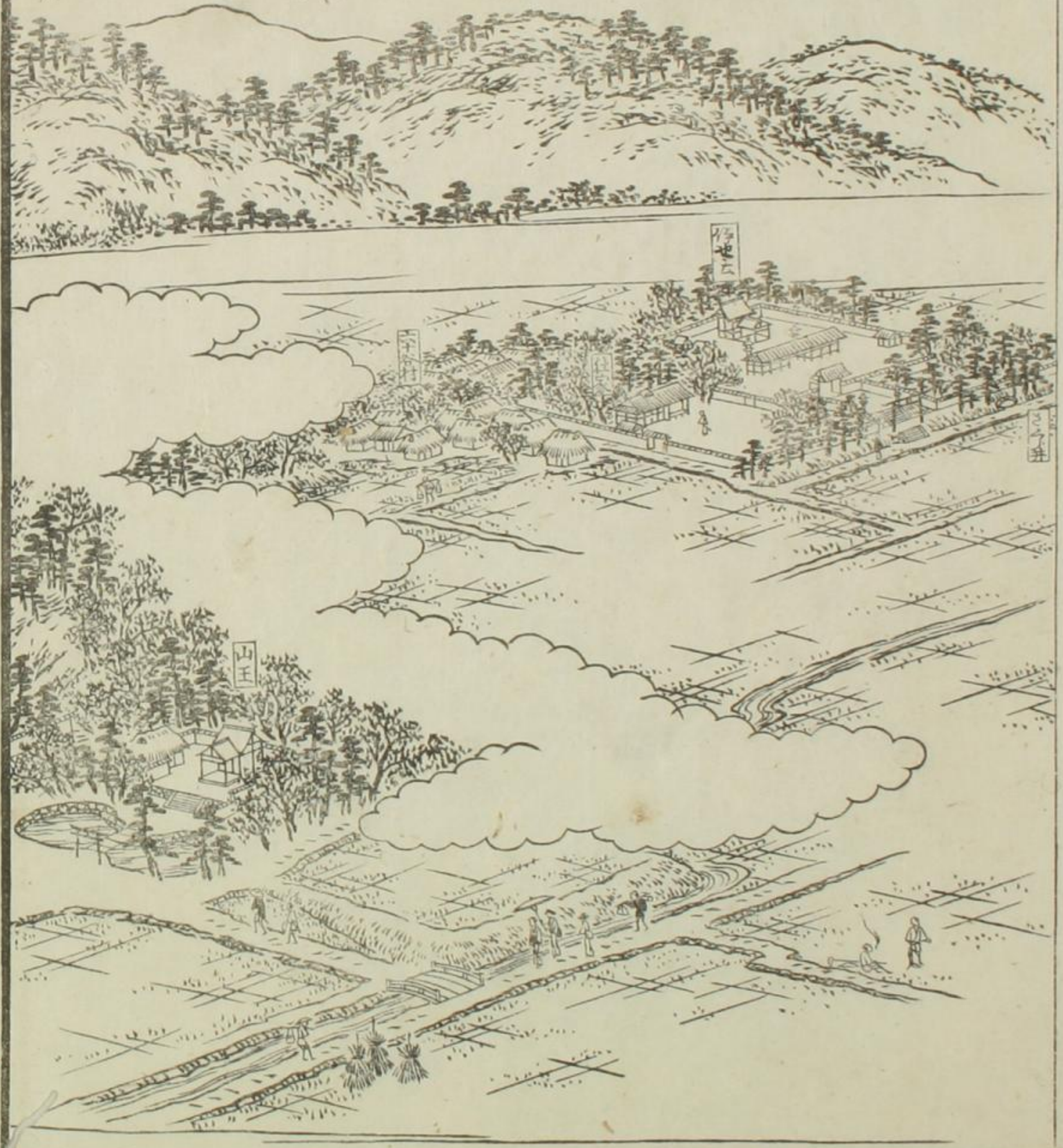
伊也云神社
伊也云神社
伊也云神社

岩のちまろ山岳をりしに星巻透し後々峯亦山あり海口
松風颯々として夜明の睡をさぬ一洞水深くして煩惱の熱と
洗つら大際をよろことせむは是必に神仙の遊栖に睡の靈區
なるべしそをた具て天奏を授く一字と名創し親く亦梅檀
をりて匠王菩提のそ像と彫刻し是と安んて根奉中堂少ん
帝敵感はうらたに於て南敵山大日寺法再院の勅号とて
たまはるる其後唐院の山仁阿闍梨大師の送跡とてさし
當山より入るいしし佛圖湖に造立し法再寺なり大師法跡
の妙典と納め二時の妙法ありてありて多宝塔より四塔の寶像
伶倫の樂を奏し六楹の華幡衆人の袖籠ぶらうとてそま
継ぐは慈覺大師道山はありて法經の體しむい釋迦多寶
普賢菩薩のそ像と自刻し別院より安んて轉機と築く
六時の遷りふし會の曉を待常の堂より法院尊像二昧の念

佛たのりたるありて後神の社に伽藍の破壞を穿り山王の社に
令法久住とてむむし五堂の大塔より大日堂より安んて孫伽の
秘法とて一切の輪藏より児女の居處と結むむ妙見
堂より天堂と初し九方の峯に三宗真言律律の三院瓜
起立し右方の峯より自し書寫の法再と収め法經山より名付
たる更し麻光都安安養の三院瓜連く奥の境とてなるもの
ありて嵯峨涼和の兩帝はむしし神歸依の處とて源く弘仁
はむし天長の寺号とあり奉ふの三塔と表してはらしたるも
増立し各根本法再常の三堂と設けく魏々たる仁國
堂とありて若くは美足日し我故より都鄙の清人杖とて
ね縮素湯作のありてありて雪の會微然とてね未教せ
ざるかといふもさうかて案なるありては後鳥羽院の
神宇然りし草のわく鳳輿とめらうしありて堂塔再具の

射止社
櫻井
大同寺

初冬遊大
同寺呈前
法印應公
真際祥雲
蔭上方給
園慧日照
高堂林楓
霜染錦成
幄籬菊秋
殘玉作鄉
山勢走空
連斗極江
光曳練遠
崇岡道遙
不獨探靈
異靜坐偏
攸襲妙杏



中洲





一里竹の
金剛寺あり



その山に
園部神社
一樂寺
光明寺
鳴滝
夏日避暑
於此遊蹟石上
懸泉三四尺
坐外孤石
松林茂
不可言
白日隱
前峯
秘門

伊久姫社

新着清明雨
幽芳發滿枝
無花應誤柳
多緒亦非絲
露重憐紅濕
風徐見影垂
一春慵似我
少春起來時

碩夫



伊久
乙由

園部兵衛重茂城趾
其小謂鳴遊
遠角暴龍者
亦之為龍在
吾河龍故府
紀清名城序
之幽名城序

北一里蓋葛嶺之區別云
其地丘壑竒峻松檜茂密
不可具狀去都如此其遠
而大志之閣有俗
勝境也下畧
月村一寺之地也其效多

海部郡

九頭大明神

一村の産神ありて例を毎年九月十四日○境内に銀杏樹あり
希代の古樹あり幹の太き三圍にあり枝葉繁茂一えど
こ小瘤のざらんとそのを生じて長く下り垂たり其最長

さるもの五尺余にたぐりて人呼ぶ研捧銀杏と云一奇
観と云ふ也

群芳譜曰崑山縣志云龍共猗沐人殿中侍御史扈從高宗南
渡道經崑山真義折銀杏一株抽地祝曰若此枝得活吾於是
居其枝長茂後成大樹繁枝蟠屈腫如瘿如乳者凡七十餘
顆相傳為其子孫嗣世之數時人異之稱為龔遇仙樹子孫遂

為崑山人云
仁比賣神社 市小松村 犯る神詳かぐり
此社神名帳曰仁比賣神社○奉玉神
一社の生主神にして例を毎歳九月廿三日にて生古大平宮字八

年豊城袋木の府藤原貞國の末として述討く凱陣の後神告
いよとく此社も賽幣くまより恒例とあり

九頭神社 一社の産神として例を毎歳九月十二日
辨財天社 月村ありの社内は藤原村あり軒牛もくくはるやかく二圓にま

世の右村あり月村の産神として例を毎歳九月十二日にて述討く凱陣の後神告
みくはるは幸の社と云ふなり
家の氏と云ふ藤原と云ふ

休言間色賤可貴殿餘春况復長松上批根得所親垂縷欲

濯水向熱來依入正是朱明節檀場別麗辰

紀伊國名所圖會卷之三上終

